

米子市 文化活動館 通信



満開の白梅



色鮮やかな紅梅

今年も市民に愛される施設へ



館長 中村輝彦

新年あけましておめでとうございます。昨年も新型コロナウイルス感染症で明け暮れた毎日でした。今年こそ、コロナを乗り越えるとともに、災害のない明るい一年にしたいものです。

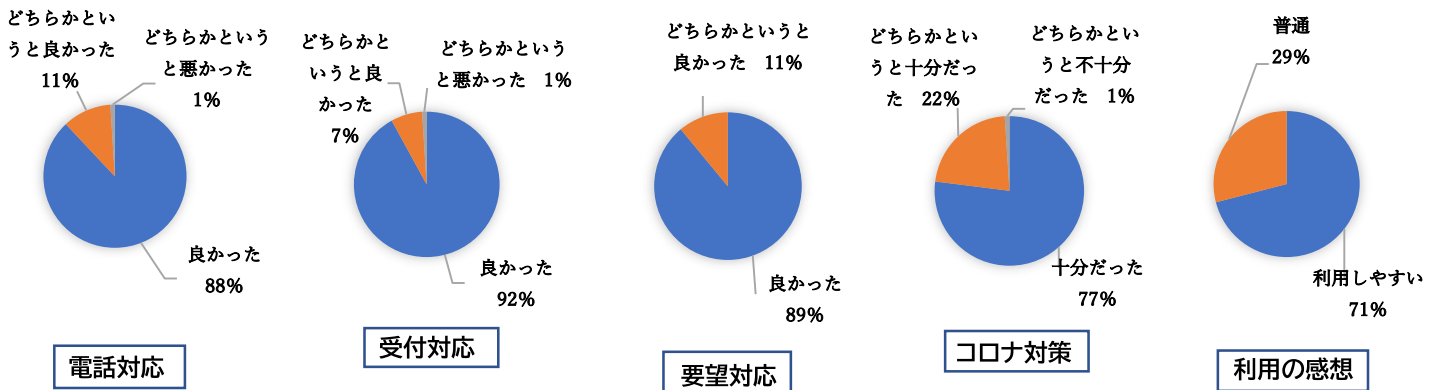
今年の干支(えと)は「寅(とら)」です。六十干支(ろくじっかんし)では、壬寅(みずのえとら)の年となります。この年は「陽気をはらみ、春の胎動を助く」とされています。その意味するところは、厳しい冬であるほど春の芽吹きは生命力にあ

ふれ、華々しく生まれる、ということだそうです。重苦しかった昨年から一転、新たな年に射し込む一筋の光を予感させます。

さて、今年は、倉吉市で県立美術館の建設工事が始まります。米子市では「こども総本部」がスタートしました。いずれも地域を盛り上げていこうという取り組みの一環です。文化活動館も、文化の振興、とりわけ伝統文化の継承を目的に、市の観光に寄与できる施設として、がいな太鼓の練習会場に活用されている他、当館主催の講座「織物教室」などを開設しています。今年も地域の皆さまと共に市民に愛される施設として発展できるように努力していきたいと思えます。

令和3年度 利用者アンケートの集計結果

利用者の皆様に、スタッフの対応などのアンケートを行い、99人の方にご協力をいただきました。



四季折々

名実ともに令和の年へ「初春の令月(れいげつ)にして、気(き)淑(よ)く風和(やはら)く」(初春のよい月で、大気は清く風はやわらいでいる)から、新元号「令和」が誕生した。奈良時代の『万葉集』巻5に収められた「梅花の歌三十二首併せて序」の一節だ。「梅花の歌」は天平 2(730)年正月13日、九州の大宰府(福岡県)で太宰帥(だざいのそち=長官)の重責を担っていた大伴旅人(おおとものたびと)が、邸宅の庭に咲く梅の花を愛でながら宴を催し、その際に詠まれた和歌をまとめたもの。旅人は、この宴の28年後の天平宝字 2(758)年、因幡国(鳥取県東部)に国守(長官)として赴任した大伴家持(おおとものやかもち)の父。家持は、万葉集を中心となって編纂したとされる重要な人物。一方、宴の席には、伯耆国(鳥取県中・西部)の国守を歴任した山上憶良(やまのうえのおくら)の姿もあった。県ゆかりの歌人が、令和の典拠となった梅花の歌を飾った。平成から令和への改元は、社会や私たちの生活に大きな希望をもたらすものと期待された。だが、令和時代は幕開けとともに苦難に直面した。相次ぐ自然災害の襲来に加え、新型コロナウイルス感染症に翻弄され、収束が見通せないでいる。令和4年を迎えた。今年こそ「初春の令月にして、気淑く風和く」として改元した「令和」にふさわしい新たな1年となることを切に願うばかりだ。(山)

弓浜絣の世界(番外編)

弓浜絣は昭和 50 年 9 月、国の伝統的工芸品に指定されました。技法などが定められています。以下の通りです。

◆沿革・特徴 18 世紀中頃が起源。地元の豊富な綿花、藍に支えられ鳥取藩の保護育成政策により発展した。藍染めを主体に、かすり模様は白と紺により花鳥山水、縁起物、生活風景をアレンジした素朴で楽しい絵よこ絣が特色。

◆技術・技法 1 次の技術または技法により製織されたかすり織物とすること。

①先染めの平織りとすること。 ②かすり糸は、よこ糸に使用すること。

③かすり糸のかすりを手作業により柄合わせし、かすり模様を織り出すこと。

2 かすり糸の染色法は、「手くくり」によること。

◆原材料 使用する糸は、綿糸とすること。

◆地域 米子市、境港市 『伝統的工芸品ハンドブック』より



学べる講座 アラカルト



↑織物教室①の受講者作品(一部)



↑韓国料理教室(10月23日)=写真、11月13日と2回開催しました。

←織物教室①(6-9月、全6回)の受講者を中心とした織物教室②=写真=が、10-12月に6回にわたって開かれ、毛糸のマフラーを織りました。

ロシア料理教室

日時 1月29日(土)

10:00-14:00

講師 パルフェーベツ・オリガ先生

メニュー ロシアのローストポーク

「プジェニーナ」など3品

定員 12人(先着順)

受講料 500円(別途材料費)

準備 エプロン、三角巾、筆記用具、

マスク

募集開始 1月6日(木)9:00

秋の除草作業を
10月24日に実施
しました。当館利用
の皆さんとスタッフ
の計22人が作業に
汗を流しました。



秋の除草作業

利用者の皆様 マスク着用をお願いします

休館日 ◆1月=1日(土)~3日(月)年始休み、毎週水曜日と10日(月) ◆2月=毎週水曜日と11日(金)
◆3月=毎週水曜日と21日(月) ◆4月=毎週水曜日と29日(金)

利用時間 開館日の利用は平日と土曜日が9:00~22:00(日曜日は17:00まで)。部屋貸し出しは閉館の15分前まで。

あとがき



伯耆国府跡・国庁跡

万葉歌人、山上憶良ゆかりの倉吉市を訪ねました。国史跡「伯耆国府跡・国庁跡」(同市国府)などです。遺跡は、市街地西方の丘陵地にありました。近くに小集落があるだけの美しい田園風景です。国庁は、奈良から平安時代にかけて、国ごとに置かれた役所(県庁のイメージ)で、都から派遣された国司(中央官僚のイメージ)が政務を指揮していました。憶良は、奈良期の霊亀 2(716)年から約5年間、伯耆国の国守(長官)として、国庁跡から北東 1.5 ㎞にある初期の国庁「不入岡遺跡」に赴任したとみられています。遺構は発掘後に埋め戻されて保存。現在、農耕地ですが約1300年前に憶良が足を踏み入れた場所と思えば、感無量でした。しかしながら、憶良がこの地で詠んだ和歌は確認されていません。伯耆時代の憶良を知る手がかりはないのでしょうか。伯耆を離れた憶良は、約10年後の天平 2(730)年、九州の大宰府で令和の典拠となった「梅花の歌」の1首「春されば ます咲くやどの 梅の花 独り 見つつや 春日暮らさむ」を詠みました。秀歌です。伯耆国府跡近くの梅林でも、間もなく白梅が咲き誇ります。(山)

お申し込み・お問い合わせは 米子市文化活動館 ☎0859(34)5154

〒683-0802 鳥取県米子市東福原 8 丁目 24-31 FAX=0859(30)4788

米子市文化活動館 指定管理者 旭ビル管理株式会社 <http://asahibiru.com/ybkk/>